

1965年8月22日(日) 決勝 時間 2時間8分(13時00分～15時08分) 審判 米谷/郷司/小西正/多湖

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	盗塁	失策
銚子商(東関東・千葉)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
三池工(福岡)	0	0	0	0	0	0	2	0	X	2	0	2

打安点	三振	遊ゴ	中飛	投飛	左飛	投直
銚子商	3	4	0	0	0	0
三池工	3	4	1	0	0	0

打安点	三振	遊ゴ	中飛	投飛	左飛	投直
銚子商	3	4	0	0	0	0
三池工	3	4	1	0	0	0

打安点	三振	遊ゴ	中飛	投飛	左飛	投直
銚子商	3	4	0	0	0	0
三池工	3	4	1	0	0	0

打安点	三振	遊ゴ	中飛	投飛	左飛	投直
銚子商	3	4	0	0	0	0
三池工	3	4	1	0	0	0

4-3	秋田(西奥羽)	準決勝	高鍋(南九州・宮崎)	1-2
3-2	報徳学園(兵庫)	準々決勝	丸子実(長野)	0-3
11-1	東海大一(静岡)	2回戦	帯広三条(北海道)	1-6
2-1	高松商(北四国・香川)	1回戦	京都商(京滋)	1-2

福岡県 大牟田市

人口 12万1255人(8月1日)
市制施行 17年

県南端の自治体。石炭の発見は15世紀半ば。明治期に炭鉱町として発展し、国内最大とされた三井三池炭鉱(宮浦鉱、四山鉱、三川鉱)を抱える「炭都」だった。1965年の出炭量は467万9800トン。当時の人口は約19万4千人で、炭鉱の合理化で減少傾向にあった

千葉県 銚子市

人口 6万7287人(8月1日)
市制施行 33年

犬吠埼の向こうに太平洋が広がる県東端の自治体。全国に知られた銚子港を中心に水産加工工業などで栄えた漁業都市。全国からサバやイワシ、サンマが集まり、1965年の総水揚げ量は15万7401トンで国内8位(農林水産省)。しょうゆの産地としても知られる。当時の人口は約9万1千人



優勝した三池工の選手ら

全国高校野球選手権大会の名場面を振り返る「あの夏」の第4シリーズ、1965年夏、第47回大会決勝の「三池工-銚子商」は、10月25日まで、計38回(火～土曜日に掲載)を予定しています。

あの夏 1965年 三池工 × 銚子商 1



炭鉱町を熱狂させた若き鬼

ヤマモトミも、わき上がった。市民大会で優勝した草野球チームがドラッグを運んで来た。お中元を配達していた。「玄關に置いておけっ」。どの家も試合に夢中で人が出てこない。勝ったのを知るとパイロットをやらせ、甲子園に向かった。遠く東の千葉県銚子市。国内有数の漁業都市も商店街、港が静まりかえった。8月は底引き漁の解禁前、準備に忙しい漁師も市場関係者も「休憩すっぺ」と、ラジオやテレビのスイッチを入れた。

勝ったのは三池工だった。戦前の下馬評をひっくり返した史上9校目の初出場優勝。工業高校では初だった。大牟田に帰ると、優勝パレードに20万人が出迎えた。電柱に登ったおじさんが紙吹雪をまく。道路は人ぞくめ。選手一人ずつが乗った赤いスポーツカーの列は前に進めなかつた。今、パレードは禁止されている。だが、やったとしても、市民をあれほどの興奮の渦に巻き込めるかどうか。野村は「大牟田は暗かったんです」と顧みる。

石炭から石油へと時代は移っていた。1960年、炭鉱労働者が合理化に対抗した三池争議で街は二つに割れた。3年後に戦後最悪の炭じん爆発事故。疲れた街に飛びきりの朗報だった。「何のしがらみもない高校野球だから、みんなが一つになつて喜べたのじゃ」と主将の木村。優勝の2日後、三池炭鉱は史上最高の出炭量を記録した。力を引き出したのは、東洋という青年監督だった。東洋高庄(当時)の内野手で、

このシリーズは隈部康弘が担当します。敬称は基本的に略します。